

災害ボランティアラボの活動紹介

はじめに

近年、日本各地で地震や水害などの災害が頻発している。コロナ禍の影響により多くの被災地では県外ボランティアが制限され、それに伴いボランティアの数が圧倒的に不足状態となっている現状がある。近い将来起こると言われている南海トラフ巨大地震や広域的な水害などに備え、コロナと共存した災害ボランティア活動のあり方を考案することが必須である。また、被害を最小限にするための日頃の防災・減災の取り組みの工夫などについて、これまでの経験知が通用しない状況がある中、大学関係者をはじめ行政や企業、地域団体などと連携し、学生の皆さんと試行錯誤しながら実践活動を通じて探求してきた。

災害ボランティアラボとは

●大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター内に「オープン・プロジェクト」が13あり災害ボランティアラボは、その内の一つプロジェクトとして2019年度に発足した。
担当教員：大阪大学大学院人間科学研究科教授 渥美 公秀

このオープン・プロジェクトは、学系間および他部局との協働を推進し、本研究科と社会の結節点としての社会共創活動を展開することにより、共生社会実現に向けての実践的な教育活動を図るために設置された。人間科学研究科内に社会との多様な結び目をつくり、あたらしい場を創っていくことを目指している。

●新型コロナウイルスの影響により、地域活動で一番大切な「人と人のふれあい」や交流の機会が制限され、サロン活動や交流イベントなど、これまで当たり前に行っていた活動すべてが難しい状況となった。災害時の対応や防災の取り組みについても、人が集まること自体が禁止され、注意を払うことが必要となった。コロナと共存していくために、コロナに対する正しい知識の習得や備えをしていくことはもちろんのこと、人と人のつながりをもてるような新しい活動スタイルを模索し継続していくことも大切である。災害ボランティアラボでは、コロナと自然災害との複合災害も視野に入れた活動や、コロナと共存した防災・減災の新たな取り組みも継続している。

設立の趣旨

災害ボランティアラボは、大阪大学人間科学部とOOS（大阪大学オムニサイト）協定（注1）を締結している災害NPO（日本災害救援ボランティアネットワーク（注2））がその27年以上にわたる経験をもとに、災害関連の現場での活動に参加してみたい人間科学研究科・人間科学部の学生と災害関連の現場を結ぶ活動を展開していく。その結果、各活動は、被災地の住民や各種団体と人間科学研究科・人間科学部の学生の双方にとって、災害現場での実践活動を通して共生社会を構築していくこと（共創）の意義と困難を経験し学習していく機会となる。学生は、共創に向けた実践を経験することで、専門知・統合知の追求と勉学、研究の広がりや深まりが生まれることが期待されると共に、実践課程や調査結果を研究報告していく。他のオープンラボをはじめ、災害ボランティアサークルを交えて他研究科にも広がりを作り、他研究科にもメリットがあるように試行錯誤を重ねていく。

※（注1）OOS協定とは・・・

OOS（大阪大学オムニサイト）は、大阪大学人間科学研究科附属「未来共創センター」のプロジェクトのひとつで、支え合う社会、共生社会を創造していくための新たな共創の仕組みです。

（注2）日本災害救援ボランティアネットワークとは・・・

QRコードからHPへお入りください。



活動紹介

活動の中心メンバー：人間科学部学生（佐々田真尋、山田悠希）



台風19号水害の支援活動
長野市内にて（2019年10月）



阪大学生グループ「すいすい吹田」による
独居高齢者への支援活動
吹田市五月が丘にて（2020年4月～）



新型コロナウイルス 学習会
吹田キャンパス内にて（2020年2月～）



防災ピクニック。12か所のポイントを探してQRコードで防災クイズに挑戦
吹田キャンパス内にて（2020年3月）

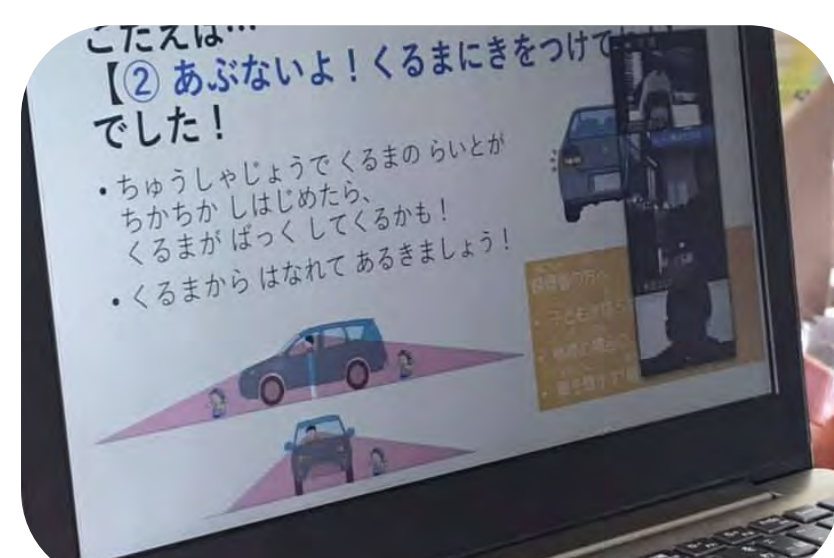
活動紹介



日本ノート株式会社発行の学習帳の
防災学習コーナーを監修
（2021年8月）



防災ウォーキングお楽しみ会
吹田市立千里南公園にて
（2021年11月）



防災ピクニック@オンライン
子どもの安全ラゴ様と共同開催
吹田キャンパス内にて（2021年2月）



防災訓練に参加
吹田市五月が丘地区にて
（2021年11月）

活動の案内チラシ例



防災意識調査（結果）

行事名：防災パーク@そねちか

共催：日本災害救援ボランティアネットワーク、大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター
協賛：大阪大学人間科学部・人間科学研究科創立50周年記念事業委員会
（大阪大学・学生企画メンバー：山田悠希、佐々田真尋、飯沼あかり、滝川穂花、村上高子（順不同））

○開催日：2022年11月5日（土）6日（日）2日間

○場所：大阪梅田（曾根崎地下歩道「通称：そねちか」にて）

○ねらい：南海トラフ巨大地震や高潮災害に対する啓発

○内容：防災ウォークラリー、災害食の展示、避難所体験、停電時の避難体験

国土交通省ブース、あおぞら湯ジーン体験ブース、など

○後援：国土交通省防災局、大阪府防災局、大阪ダイバーシティ協議会



今後の課題

コロナ禍における、被災地での災害ボランティアのあり方を探求したい。これまでのように遠方から駆けつけるのではなく、なるべく地元のボランティアが参加する方が、交通渋滞や宿泊場所の不足など地元への負担が少なくなるのではないかと、また、高校生や大学生など地元の学生さんたちの活動補助についても、合わせて調査をしたいと考えている。

防災・減災の取り組みについては、高齢化社会がどんどん加速する中、避難時の体力や避難所での健康管理がとても重要となる。テーマは「健康と防災」。日頃からの健康管理策について、負担なく楽しみながらできる具体的な方策なども、ウォーキングなどの実践活動と合わせて探求してみたい。また、各企業が開発されている防災グッズについて、広く市民や企業などに紹介する仕組みも研究テーマに取り上げたい。

認定NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク（NVNAD）
常務理事 寺本 弘伸